

# 九十九島は 日本が誇る財産

西海国立公園九十九島水族館「海きらら」館長

## 川久保晶博



セリ人から水族館の館長へ  
魚集めならおまかせあれ

佐世保市の九十九島を望む西海国立公園に、全国的に注目を集めている水族館「海きらら」があります。実は水族館としてオープンした一九九七年から入館者数が増え続けており、一度も減っていないのだそうです。この西海国立公園九十九島水族館「海きらら」の館長である川久保晶博さんは、水産学部の卒業生。館長に就任するまでの経歴が一風変わっている異色の方でもありました。

「佐世保出身で、たまたま叔父でしよう」。

そんなにすごいものとは知りませんでした。

「佐世保や長崎の人はあまりピョンと来ていないようです。ラッコやペンギンといったカリスマ性のある生き物はいませんが、カブトガニや、それまで国内では一カ



所にしかないとされていた天然記念物の植物トビカズラが自生していることも確認されました。実はすごいことで、こういったニュースを折々で発信しながら九十九島の自然を紹介しています」。

が長崎大学水産学部の練習船のエンジニアでした。「水産学部はよかぞー、来ーい」という一言で長崎大学へ。そこで魚の勉強をするうちに面白さに目覚めて、毎日魚を見られる所はどこだろうと思案した結果、佐世保魚市場へ就職することに決めました。以西底引き漁の魚が多い長崎やサバなどの青物の多い松浦の魚市場と比べ、佐世保は魚種が豊富な「色物市場」。いろいろな魚を見るだけでも楽しかったですね。タイ、ヒラメ、メジナや、イカだけでもケンサキ、ヤリイカ、アオリイカ、スルメイカ…。三年後にはセリ人になりました。魚市場では花形的な存在で

すよ。その後、ハウステンボスで魚介類の仕入れをやるうちに、佐世保に水族館ができることになり、水産学部出身というキャリアを見込まれて水族館の立ち上げから関わりました」。

つまり、食べる魚から見る魚への転換ということですか？

「はい。私としては、魚が大好きなので特に違和感はありませんでした。十三年間にわたるセリ人の頃の知識とネットワークがあるので、いつの時期にどんな魚種が取れるのかもだいたい頭に入っています。こういった魚が欲しいなと思ったら、あの時期にあの人に電話すれば手に入るなど。日本で

一番魚に苦労しない水族館かもしれない（笑）」。

八割を占める自然海岸は生物多様性の見本

実は取材の日も「朝から海に藻を採りに行くので、午後でいいですか」と指定されました。

館長自ら海に入るので「種から育てた海藻を海に移植しており、その成長具合を見に行きました。私の基本はフィールドです。職員にも、自分たちのテーマである九十九島をしっかり観察して、それを水槽に再現して伝え

い、漁獲された魚種の調査をやっています。温暖化の影響は、実は陸上よりも海の方が激しいようです。冬場の水温が下がらないことが影響して、獲れる時期も場所もずれています。『海の中はぐちゃぐちゃになっている』という漁業者の方の言葉がすべてを物

語っています。そのほか珊瑚の生息の調査など、いくつものフィールド調査を進行しています」。

水族館の運営もありますし、大忙しですね。

「『海きらら』では、市民や大学生などたくさんボランティアが主体的に動いて、読み聞かせや紙芝居、パネルシアターなどのイベントを催してくれています。私も頼まれて舞台で『海賊』に扮することもありますが、館内の展示でもそうですが、メッセージ性を前面に出し過ぎないで、自分も楽しみながらお客さんに楽しんでもらう。その上で、この生き物は好きだな、いなくならないように自然環境を守るのが大切だな、といったのまにか意識が一段階上がる。交流や情報発信が活発になれば、『あそこは元気だから一度見ておくれか』とさらに人が増える。その好循環が入館者数が増え続けている大きな要素かもしれません」。

「魚が好き」がすべての基本と笑う川久保さん。小麦色の笑顔の理由は、「好き」を仕事にできる幸せと、「好き」だからこそ感じる環境保全への責任感から生まれるのかもしれない。

かわくほあきひろ  
させほパールシー株式会社常務取締役(西海国立公園九十九島水族館館長)。長崎大学水産学部卒業後、佐世保ハウステンボス株式会社を経てさせほパールシーに入社。水族館館長として業績を上げる一方で九十九島の自然調査にも取り組んでいる。

なさいと常に言っています。九十九島には、驚くほどたくさん生き物が生きています。その多様性は世界でも有数で、三百種類以上通常の三倍です。これはなぜかというと、一帯が西海国立公園に指定されており、自然海岸が島全体の八割を占めていることが大きいのです。その上、このエリア内に岩場や砂浜、干潟などいろいろな環境があります。潮間帯と満潮と干潮の間を歩いて回るので、小さな生き物が食ったり食われたりして絶妙なバランスが保たれており、自然観察だけでも十分に見応えがあります。これは世界に誇る日本の財産といつていい

なさいと常に言っています。九十九島には、驚くほどたくさん生き物が生きています。その多様性は世界でも有数で、三百種類以上通常の三倍です。これはなぜかというと、一帯が西海国立公園に指定されており、自然海岸が島全体の八割を占めていることが大きいのです。その上、このエリア内に岩場や砂浜、干潟などいろいろな環境があります。潮間帯と満潮と干潮の間を歩いて回るので、小さな生き物が食ったり食われたりして絶妙なバランスが保たれており、自然観察だけでも十分に見応えがあります。これは世界に誇る日本の財産といつていい

なさいと常に言っています。九十九島には、驚くほどたくさん生き物が生きています。その多様性は世界でも有数で、三百種類以上通常の三倍です。これはなぜかというと、一帯が西海国立公園に指定されており、自然海岸が島全体の八割を占めていることが大きいのです。その上、このエリア内に岩場や砂浜、干潟などいろいろな環境があります。潮間帯と満潮と干潮の間を歩いて回るので、小さな生き物が食ったり食われたりして絶妙なバランスが保たれており、自然観察だけでも十分に見応えがあります。これは世界に誇る日本の財産といつていい

なさいと常に言っています。九十九島には、驚くほどたくさん生き物が生きています。その多様性は世界でも有数で、三百種類以上通常の三倍です。これはなぜかというと、一帯が西海国立公園に指定されており、自然海岸が島全体の八割を占めていることが大きいのです。その上、このエリア内に岩場や砂浜、干潟などいろいろな環境があります。潮間帯と満潮と干潮の間を歩いて回るので、小さな生き物が食ったり食われたりして絶妙なバランスが保たれており、自然観察だけでも十分に見応えがあります。これは世界に誇る日本の財産といつていい

なさいと常に言っています。九十九島には、驚くほどたくさん生き物が生きています。その多様性は世界でも有数で、三百種類以上通常の三倍です。これはなぜかというと、一帯が西海国立公園に指定されており、自然海岸が島全体の八割を占めていることが大きいのです。その上、このエリア内に岩場や砂浜、干潟などいろいろな環境があります。潮間帯と満潮と干潮の間を歩いて回るので、小さな生き物が食ったり食われたりして絶妙なバランスが保たれており、自然観察だけでも十分に見応えがあります。これは世界に誇る日本の財産といつていい